

### 3 小委員会開催概要

#### 3-1. 開催概要

当日の議事を以下に示す。なお、小委員会資料の内容は協議会HPで公開している。

| 小委員会名               | 日時                          | 場所                        | 議事次第                                                                                                                                             |
|---------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第5回<br>水循環<br>小委員会  | H17.11.2 (水)<br>13:30～15:30 | 釧路地方合同庁<br>舎5階<br>共用第1会議室 | 1. 開 会<br>2. 議 事<br>1) 現地見学<br>2) 会議<br>・ 現地見学を踏まえた意見交換<br>・ 学識経験者からの話題提供（勉強会）<br>テーマ：釧路湿原周辺の地質と地下水<br>発表者：株式会社レアックス 許 成基 博士<br>3. その他<br>4. 閉 会 |
| 第5回<br>森林再生<br>小委員会 | H17.11.8 (火)<br>10:30～12:30 | 釧路地方合同庁<br>舎5階<br>共用第1会議室 | 1. 開 会<br>2. 議 事<br>1) 達古武地域自然再生実施計画（案）<br>3. その他<br>釧路湿原流域の森林現況図について<br>4. 閉 会                                                                  |
| 第6回<br>土砂流入<br>小委員会 | H18.1.16 (月)<br>13:30～15:30 | 釧路地方合同庁<br>舎6階<br>入札執行室   | 1. 開 会<br>2. 議 事<br>1) 土砂流入対策実施計画〔久著呂川〕(案)<br>2) 土砂流入対策実施計画<br>〔雪裡・幌呂地域、南標茶地域〕(案)<br>3. その他<br>4. 閉 会                                            |

#### 3-2. 議事要旨

第5回水循環小委員会、第5回森林再生小委員会の議事要旨を次に示す。

釧路湿原自然再生協議会  
第5回水循環小委員会  
議事要旨

■ 現地見学を踏まえた意見交換について

現地見学のポイントについての説明が事務局より行われた後、現地見学を踏まえた意見交換が行われた。

(委員)

- 地下水位観測計器設置諸元は、形式を記述する程度で良いのではないか。必要な情報として、観測機器設置断面図に柱状図を併記した方がいいと思う。

(委員)

- 湿原内の河川と地下水位の関係が重要である。特に湿原の場合、表面の水移動は非常に大事な情報である。是非、湿原内の河川の水位観測を行ってほしい。
- 自然河川だけでなく、右岸堤の堤内排水の水位なども測定した方がいいと思う。この堤防が湿原内の水循環にどのような影響を与えているか把握する必要があると思う。

(事務局)

- 釧路川本川では河川水位の観測も行っている。また、遊水地右岸堤の堤内排水路近傍には地下水位計が設置されており、そのデータは堤内排水路の水位を把握する上で参考値にできていると考えている。

(委員)

- 幌呂川地区の湿原再生についてなにか具体的な計画があれば教えてほしい。
- 被圧地下水が釧路湿原にどのように寄与しているのか教えてほしい。

(事務局)

- 幌呂川地区の湿原再生については、現在調査検討中で、まだ実施の段階に入っていない。この地区をどのように再生するか、現在議論しているところである。
- 地下水と植生との関係については検討に着手した段階で、まだ把握できていない。

(委員)

- 被圧地下水の寄与に関して、夏期は河川の氾濫もあることから、地下水のボリューム的な寄与率は低くなると思う。しかし、冬期の河川氾濫が起こらない季節は、被圧地下水のボリューム的な寄与率が大きくなると思う。
- 特に釧路湿原の場合には、熱が果たす役割を無視できないと思う。タンチョウが冬期間も湿原で採餌できる1つの理由として、地下水から供給される熱が大きな役割を果たしていると考えられる。被圧地下水の年間のボリュームと熱量の賦存量を計測しているのか確認したい。今すぐ使わないにしても、そのようなデータも蓄積しておく必要があると思う。

(事務局)

- 水温を測定している地点もあるが、冬期間は計測しておらず、熱の賦存量も把握していない。

(委員長)

- 地下水がどの程度動いているかまだ分からないので熱の賦存量も分からないと思うが、最終的には必要になってくると思う。不圧、被圧の地下水量を概略把握したときに、その熱量、賦存量もまとめてほしい。

(事務局)

- これからボーリング調査を実施する地点もあるので、そこでの状況を見て必要な調査として検討したい。

(委員)

- 幌呂川地区の変遷の詳細、この地区をどのように復元しようとしているのか、具体的な資料があれば示してもらいたい。

(事務局)

- 変遷については、まとめた資料があるので、次の機会に説明したい。変遷と現状を踏まえてこの地区の再生について検討していきたいと考えている。

(委員)

- 農地開発が行われ、放棄されてからの変化を把握することで、人間がどこまで関与し、どこまで自然の復元力に委ねるか検討する際のいいデータが取れると思うので、きちっと示してもらいたい。

## ■ 「釧路湿原周辺の地質と地下水」研究発表について

第3回目の勉強会として「釧路湿原周辺の地質と地下水」と題して許 成基 博士(株式会社レアックス)から話題提供いただき、テーマに沿った意見交換が行われた。

(許博士：発表内容抜粋)

- 被圧地下水がどの程度釧路湿原に寄与しているのかについては、全く分かっていない。昨年、ボーリング調査を5箇所実施して、内部の地下構造を概ね把握したところであるが、深部の地下水位については観測を始めたばかりである。
- 水は、湿原が誕生して消滅するまでのあらゆる段階で湿原と密接に関係している。湿原が湿原として維持されるには、水との関わりを知ることが大事で、水収支を把握する目的は、この各段階における水が果たす役割の量的な実態を明確にすることである。
- 水収支を詳細に把握することで、現状の湿原が理想状態であればその状態を維持する方策を、過去のベストの状態を再現したければその方策を、また、現状が末期症状であればその再生方法を模索する材料を提出することができる。
- 既往の研究成果を見ると、年間の有効降水量 800mm のうち地下水涵養量が 770mm 程度という報告があり、その量は大変多い。この地下に浸透した水が河川に戻り、またあるいは海に直接入っていくが、現状ではこの量的な実態が全く分かっていないので、今後調べていきたいと考えている。
- 地下水は、帯水層の中に入っている。帯水層は、垂直的にも水平的にも有限であるが、その地層が大きな単位帯水層となり、それが地下水盆となる。北海道内の大きな地下水盆として、根釧平野、帯広の扇状地、石狩平野、支笏湖東側の火山灰台地、上川盆地、名寄盆地などが挙げられる。
- 釧路川流域が1つの大きな地下水盆であるが、まずは釧路湿原を1つの地下水盆ととらえて水収支を把握したいと考えている。
- 不圧帯水層は気圧に同期しているが、被圧帯水層は大気圧に遮断されており、別の圧力を受けている。
- 地下水盆は、帯水層、難透水層および不透水層などが集まってつくられており、地質学的には堆積盆と全く同じということになる。
- 堆積盆の下には不透水性の基盤があり、釧路湿原の場合は根室層群や浦幌層群がこの基盤に該当する。堆積盆の中を流れる水は、局所流動系、中間流動系、広域流動系の3つに区分することができる。降水が地下に涵養して遠い距離を流れて流出するものを広域流動系、降水が地下を通過してすぐ近くの河川にそのまま流れてくるものを局所流動系、その中間を中間流動系と言う。

- 堆積盆を把握するということは、地質を把握するということになる。地質学は層序学から出発しているが、これには“地層累重の法則”、“交差の法則”、“古生物層序の法則”という3つの法則がある。調査を行い、これら法則に基づいて分析を行うことで地質図をつくることができ、また、堆積盆の形を把握することもできる。
- 昨年度から行っている調査結果に基づいて作成した地質図および地質層序表を見ると、湿原周辺で確認されている最も古い地層が根室層群という約6,600万年前の地層である。
- 釧路湿原周辺では、樽前Cと呼ばれる火山灰など、降下年代が分かっている火山灰が複数分布しており、この火山灰を追跡することでその上下に分布する地層の年代も分かってくる。
- 根室層群は、ほとんどが砂が固まってできたものであるが、水理地質学的には難透水層あるいは不透水層に区分される。根室層群の上に浦幌層群、釧路層群という地層が分布しており、釧路層群は下から東釧路層、達古武層、塘路層に区分することができる。午前中、露頭でも確認した達古武層は非常に良好な帯水層である。
- 塘路層はほとんど粗粒の砂でできており、斜交層理が発達している。斜交層理は、水が行きつ戻りつしながら堆積したことを示すもので、浅い海岸で堆積したものと考えられる。
- 釧路湿原の北方に目を転じると、火山灰と砂と泥で形成された数十メートルの高さを持つと推定されるクチョロ火山灰層が分布している。クチョロ火山灰層の実態は分かっていないが、達古武層を形成する堆積物を供給した地層であることが大体分かっている。つまり、南方が海であったときに、北方では火山灰が堆積する環境であったことを示すもので、釧路湿原の北と南は異なる発達の仕方をしたと推定される。
- 地質そのものの調査に加え、湧水点の調査も実施している。湧水の量、水温、pH、電気伝導度とその時の気温を測定している。この結果を分析して地下水コンター図をつくり、大局的な水の流れを推定するとともに、測定結果と土地利用状況などを複合的に対比することで、流動形態とともに水の性質や水質変化の要因を推定することもできるようになる。

(委員)

- 河川によって、電気伝導度が上流で高く下流が低い場合がある。この原因は把握できているのか。

(許博士)

- 電気伝導度が上流の源流部付近で高いのは、草地での肥料散布の影響を受けたものと考えている。下流に行くに従って、肥料などの汚染物質がないところを流下することにより、きれいな水に希釈されて電気伝導度が低くなっていると考えている。

(委員)

- 草地の影響を受けているようなところは、表面の影響を受けやすいから、当然水温も高くなると考えてもよいのか。

(許博士)

- 現在はそうように考えているが、確認には詳細な調査が必要だと考えている。

(委員)

- 温根内周辺や広里の方は、深部の地下水に塩分が多く含まれている。地質や地下水の関係から、この塩分の供給源が分かれば教えてほしい。

(許博士)

- 水収支をきちんと把握するためには、海水の影響を考えなければいけない。上流に向かって塩水くさびが入ってきており、湿原にも当然関係していると考えられる。
- 昨年度の調査で、湿原内のD5という地点で80メートル程度掘削したときに、地表から12メートル程度上まで水が噴出したが、その地下水にも塩分が含まれていた。その地層

は水理地質基盤の浦幌層群で、水を通さない地層であることから化石水の可能性もあると考えている。

(委員)

- 広里周辺での塩水くさびの大まかな深度を教えてほしい。

(許博士)

- 塩水くさびは、釧路川の河床勾配と水の流れ方によってどこまで到達しているか決まってくるものだ。

(事務局)

- 広里付近まで塩水が到達していたと思う。

(委員)

- 広里の調査地の近くに旧雪裡川が流れているが、旧雪裡川沿いでは塩分はあまり検出されていない。雪裡川と十二線川の間付近の塩分濃度が一番高いということが分かってきた。
- 塩分濃度分布とハンノキ分布はある程度関連しているという説もあるので、塩分濃度の高い地下水の供給形態は重要な情報になると考えている。そこで昔、海であった頃に閉じ込められたものがしみだしているのか、それとも塩水くさびが深いところから入ってきているのか知りたいと考えている。

(委員)

- サロベツでは、地下 60 メートル程度のところで地下水の流動が潮汐の影響を受けているという研究結果も出ている。直接海から入る塩水くさびは大きな勾配持っているはずなので、奥までは入らないと考えられる。
- 閉じ込められたものだとする、6,500 年程度前のものということになる。その間の降水量から推測すると、地形的な要因で化石水として残っている可能性はあるものの、定常的なものとして残っているとは考えにくい。

(委員長)

- 許先生は、釧路湿原をかなり研究されているので、今後も適切なアドバイスを頂きたいと考えている。

## ■ その他について

事務局より、第 9 回釧路湿原自然再生協議会の開催日程を確定次第告知する旨連絡があった。

以 上

釧路湿原自然再生協議会  
第 5 回森林再生小委員会  
議事要旨

■ 達古武地域自然再生実施計画（案）について

前回の小委員会で議論された達古武地域自然再生実施計画(素案)からの変更点についての説明が事務局より行われた。

< 実施計画（素案）からの変更点について 第 2 章 >

（委員長）

- 本小委員会では、森林を含めた達古武沼流域全体を保全するために、水質や土砂流出などの他委員会でとりあげるべき問題も含めて議論していこうという方向でいる。実施計画（素案）には具体的な施策的内容も記載されていたが、先の協議会において、各小委員会で問題が具体的にまとまっていない内容の記載方法に関して指摘があった。この指摘を踏まえ、今回の実施計画（案）においては、対象地域の様々な問題点を指摘し具体的な施策までは踏み込まずその方向性を示すのみにとどめている。今回の修正点はこのような内容が主である。
- 今回の実施計画作成に当たっては、様々なデータが利用されていて、そのデータの根拠が報告書であったり、学会誌等であったりと思う。今後、この実施計画に興味を持たれた方のためにも、記載しているデータの出典を明記して欲しい。

（委員）

- GIS で現況の地図などはビジュアルな形になっているが、例えばカラマツ人工林の面積がどの程度減少していくかなど、最終的なアウトプットがビジュアルで示されていなく文章的にもはっきりした数値が示されていないのではないかと。

（事務局）

- 第 2 章は、対象地域全体の課題と再生の方向性について記載している部分であり、例えば何年までに何ヘクタールを広葉樹に戻すという具体的な数値を示すのは困難と考えている。

（委員長）

- 達古武流域の土地所有の現況を見ると私有地がほとんどを占めており、地図で将来像を示すことには限界がある。しかし、この小委員会に入って議論していただいている森林所有者の方もおり、その中には流域の保全を考えながら施業計画を検討されると

いう意見をいただいている。達古武地域については、そういう積み上げ的に進めていくしかなく、トップダウン的に目標を示すことは出来ないのではないかと思います。

（委員）

- 他の委員会に差し障るような内容は記載するなということであったが、釧路湿原再生を実施していく上で全てが一つでなければならず、どこを優先して取り組んでいくかということをしかりと共通認識する必要がある。山を守らなくては湿原は守れないのだということを、この委員会でどんどん発言していくことで周りも変わっていくのではないかと。

（委員長）

- ご指摘いただいた通り、どんどん発信していくという考えに変わりはない。ただ、事業地以外での具体的な手法の記載については若干控えている。

### <実施計画（素案）からの変更点について 第3章>

#### ■標準地とモニタリング

（委員）

- 試験施工後の調査が指標種と樹木に限定されているが、生物多様性という観点から考えると、全体の植生調査や動物相調査もすべきではないか。

（事務局）

- 事業実施地区や対象地域では、これまでに植物・動物相の多くの項目についての調査を実施してきている。その中で実施計画に記載した項目は、再生の手法を評価するという観点から特化させており、これらの項目で試験結果を評価できていると考えている。

（委員）

- リファレンスサイト R1、R2 が設定されているが、所有区分では私有林となっているようだが。
- 樹種によってはエゾシカが好む樹種もあると思われるが、リファレンスサイトではエゾシカの影響はどのように考えているか。

（事務局）

- リファレンスサイト R1、R2 は、20×20m<sup>2</sup>の方形区を設定し、調査を実施している。森林所有者の方には、調査・事業の趣旨を説明し、末永く現状を維持して頂くようお願いをしている。

- リファレンスサイトは、丘陵地の上部に位置し、エゾシカが好むハルニレやオヒョウなどは少ない。その為、エゾシカの越冬地的な場所にはなっていないので被食の影響は比較的少ない場所と考えている。

## ■エゾシカについて

(委員)

- エゾシカに関する調査や対策についてはどの様に考えられているのか。

(委員)

- シカの問題は全国的な問題になっており、知床においても科学委員会のもとエゾシカに関するワーキンググループを設置し、検討している。この実施計画では対策として防鹿柵を挙げているが、この他の手法も検討していかなければいけないと考えている。

(委員)

- エゾシカは猟が解禁になると禁猟区である国立公園の中に逃げ込み、木を食い荒らす。国立公園の中の禁猟というのを外すという方策は出来ないか。

(委員)

- 国立公園ということではなく、鳥獣保護区に指定されているためエゾシカは狩猟できない。釧路湿原は、国立公園になる以前から希少鳥獣の保護を目的に鳥獣保護区が設定されているということもあり、シカの問題だけで鳥獣保護区を外すということは現実的ではない。
- ただ、鳥獣保護区であっても有害鳥獣駆除の制度があり、被害を与えている有害な鳥獣であれば、手続きをとって駆除することができる。エゾシカの対策は、総合的に考えていかなければならない問題と考えている。

(委員長)

- エゾシカの問題は情報不足の面もあり、専門家の委員に説明していただくことも含め、大きな目で見たい個体群管理を含めた議論と、試験地をどう守るのかといった議論を同時に進めていきたい。

## ■育苗計画について

(委員)

- 52ページで、苗畑を2005年度から整備するということであるが、今年の種子は採れているのか。

(事務局)

- 今年は全道的に凶作といわれており、達古武においても、残念ながらほとんど採れていない。52ページに示している3万粒を確保することはできなかった。ミズナラは、豊作・凶作の周期があると言われており、今年が大凶作であれば来年から徐々に回復していくのではないかと考えている。

(委員長)

- 自然環境に対して多大に負荷を与えるような議論でない限り、進めていく必要があることは、進めていく必要がある。苗畑整備もいわば準備に当たるものなので、本日の委員会です承した上で進めて行き、協議会には事後報告で良い。

(委員)

- ミズナラの結実に関して、何年周期で不作・豊作があるとか、具体的な既知の事実はあるのか。

(委員)

- 前年の気候が大きく影響するという説が最近が多い。ミズナラは隔年で豊凶がでる傾向が強く、アオダモは5年に1度と言われている。ダケカンバやイタヤカエデも豊凶が強いタイプであり、イタヤカエデはミズナラと豊凶のパターンが逆を示すことが多いので、必ずしも天候だけに影響されていない可能性があると思われる。

(委員)

- 昨年達古武地域のミズナラは大豊作まではいかなかったが、1万5千個ほど採取した。今年はかなり努力しても1500個ほどしか採れなかった。一年おきに豊凶があると言われているが、開花の時期に雨が降ると受粉しないため、その年はほとんど実をつけないこともある。周期とは別に、気候によって相当の影響を受けるということを経験上感じている。

(委員)

- 種子が採れた時に、いかに貯蔵して安定的に苗木を作っていくかということを考えていく必要がある。個人で苗畑をやっている方が、ミズナラの種子を1～2年保存できる手法を知っていた。実際に事業を進める中では、安定的な苗木作りという観点から種子の保存方法についても検討する必要があるのではないかと。もう少し調べ、今後事務局に情報をお知らせしたい。

(委員)

- 限られた母樹から種子を集めることになり、クローン化していく危険性があるのではないか。

（事務局）

- 4200ヘクタールの森林を対象に母樹調査を実施している。同じ木から毎年採取するというより、同じ流域から採取するという考えでいる。

<今後のスケジュールについて>

（委員長）

- この委員会では、前回の協議会の意見を踏まえて作成された、この実施計画（案）は了承された。協議会に最終報告をして欲しい。

（事務局）

- 12月の地域との意見交換会と第9回協議会で、実施計画（案）の修正が必要となる意見が出た場合には、次回の小委員会で報告させていただく。

## ■ 釧路湿原流域の森林現況図について

釧路湿原流域の国有林と民有林のデータが整理され、作成された森林現況図について、事務局から説明が行われた。

（委員）

- 誰がこれを使っていくのか基本的な考え方を小委員会として意志統一していく必要がある。

（委員長）

- 国有林と民有林で同じレベルでは整理できなかった面もあり、実際上の不具合もある。ただ、現時点における環境省の植生図から比べると、より高いレベルでのデータが整理されたと言える。森林だけではなく、湿原の植生についても詳細なデータが揃ってきており、河川の流路図なども大正時代の地形図をデジタルリングしたデータもあり、タンチョウの分布データなども既にある。徐々に基本的なデータが揃いつつあるのが現段階であり、これらをどうやって使っていかうことは非常に重要な事である。

（委員）

- NPO トラストサルン釧路が、再生事業の実施者になるかどうかといった問題があり、

誰か別な者が出てきて実施計画を立てるという可能性は非常に薄い。しかし、民有地であるから手を付けられないといって、誰も何もしなければ、その 90%以上が民有地である釧路湿原の再生というのは、ごく一部に誰かが何かをやっているというにしかない。これに対して、森林再生小委員会としては、どういう意見を持つのか意見集約してもらいたい。

（委員長）

- この委員会は協議会の中の専門委員会であり、森林について議論をする場であるが、それに留まらず、水循環のデータも出しながら達古武の集水域全体を考え議論していく。意志統一をするためにも是非、どんどん意見を出していただきたい。

（委員）

- 自然再生のひとつのポリシーの中に「情報の共有化」と「情報の公開」がある。共有化については、自然再生の基本方針や実施計画を作る時に、関わっている人の中で科学データに基づいてプランニングするためのデータベースを作ることが重要だと思う。そのためには、GISの生データについて把握し、必要に応じて評価図や主題図を作り、それを共有したい。公開については、釧路湿原では自然再生の全国モデルになっていこうとしており、「こういうことをやっている」と、積極的にアピールする。そのためには、例えば、今進めている様なホームページ上でのわかりやすい情報公開が必要である。積極的に情報を使おうとする仕組みと、外に向かってアピールするという二段構えでやってはいかがか。

（委員長）

- この協議会に加わって、釧路湿原の再生・保全に関わっている人に、データが解析できるレベルまで公開していきたい。個人情報や希少種のデータ以外は公開できるのではないか。ただ、それらについても、どういう目的を示してもらい申請書等を書いてもらい公開していきたい。
- 今、既に協議会のホームページは、高い評価を得ている。

（委員）

- 基本的には更に、生データもタダで全て公開すべきである。それに向かって、出来るものは公開する、出来ないものは将来的に検討できる方向で努力していただきたい。

（委員）

- 今回のこの現況図（資料3）はどこが作ったのか、著作権フリーで誰でも使って良い

のか。

（委員長）

- 現在は、環境省が管理するデータベースである。情報公開法のもとで、請求すれば出てくるものであることは間違いない。

（委員）

- 今回の国有林のデータは、この自然再生協議会の資料として使うということで林野庁から出している。流域全体の森林の状態を把握するという目的のために関連する省庁も協力出来るところは積極的にしていくということでデータの提供をした。ただ、このようなデータの提供には一定の条件があり、それをクリアする必要がある。

（委員）

- 環境省としては議論を進めていくために、釧路湿原に関わる様々な情報を関係者で共有することが大事であると考えている。林野庁からも流域に関する基本的な情報を整備する、ということで国有林データを提供していただいた。今後も情報のデータベース化やマップ化を進めていきたいと考えている。ただし、提供する主体によってはそのまま公開されるのは困る、ということもあるので、どの様な形であればホームページ上で公開できるか、情報の提供者と個別に話し合いながら、出来るだけ多くの人が自由に使える情報提供に努めていきたい。

（委員）

- この委員会に関係する森林再生に関することであれば自由に使って良いのか。データを使い、新しい事実が見つかり報告書を作成するなど、勝手に使用していいのか。

（委員）

- 例えば環境省のホームページを使い、印刷・製本し、そのまま販売するなどの場合、問題ではある。ただ、現時点では想定しておらず自由に使ってもらっている。

（委員）

- 基本的にはいいと思うが、想定はしておいた方がいい。

（委員長）

- 基本的に税金を使ったデータであれば公開をしていきたい。申請をすれば許可をもらいデータを使うことができるという形にしたい。全くフリーに使えるようになると、勝手に一人歩きし、マイナス面が出てきてしまう懸念もある。どのデータを使い、ど

う解析したかが明示してあれば、後にレビューも出来る。

- どこかの省庁がデータを囲うのではなく、トラストサルン釧路や大学の研究室や環境省や国交省なり林野庁なりそれぞれが同じデータを元にそれぞれの条件で解析を行い議論していくことで、最終的により良い考え方が出てくるのではないかと。

（委員）

- 現在、大量のデータが集まっている。データを使用する際の申請手続きが複雑なものもある。まだ、データを使う際の申請方法が整理されていないため、これからは手続きを一覧に整理するなどして、お見せできるようにしたい。

（委員）

- NPO トラストサルン釧路はボランティア活動であり、専門家がいるわけでもなく、単に地域の事情にある程度詳しいということが強みである。その中で、釧路湿原全体の自然再生の方向性をまとめるということは出来ない。

（委員長）

- トラストサルンだけでそういうものを作れという意味ではなく、意見やアイデアを出して出来る範囲で加わって欲しいという意味。

（委員）

- 土砂の流入に関して、土砂流入に詳しい専門家にも意見を聞くのはいかがか。

（委員）

- 民間団体が主導しなければ自然再生は成功しないということが国際的な考え方になっているが、それを支援するために具体的な方法が決められておらず、努力目標であるだけならば、民間団体は非常に活動しにくい。

（委員長）

- 自然再生全体の問題であり、改めて議論が必要である。

（委員）

- 環境省は、トラストサルン釧路との協働事業として、達古武地域の自然林を再生するため、試験的な苗木の生産や土砂流出防止の対策、試験施工などを行っている。自然再生法には、財政上の措置について書かれているが、努力規定である。